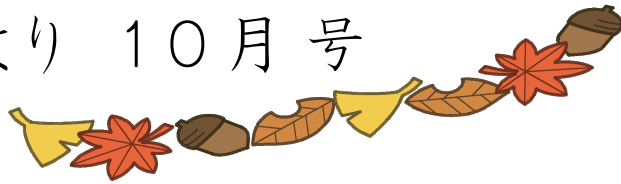


図書館だより 10月号



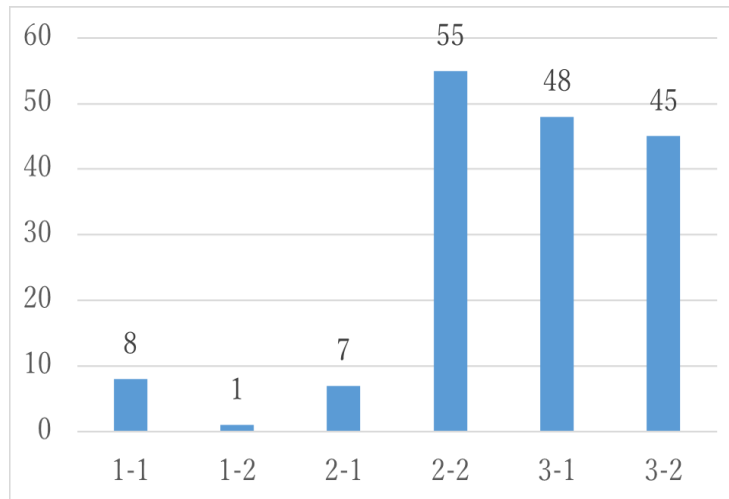
読書の秋です。
図書館で本と過ごしませんか。

平成30年10月
大洲農業高校図書委員会

9月の図書の貸し出し 合計 164冊

目標は、年間1人10冊です。(ただ今5.1冊!) ぜひ、図書館の本を読んでください!

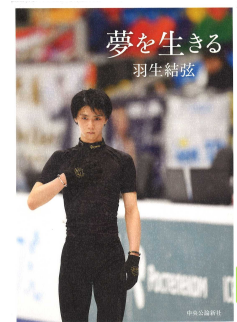
クラス別貸出冊数



本という言葉

それぞれに抱えている過去があって、未来があって、性格やプライドだってあって。苦しさや不幸を単純に比較することなんてできない。だから家族ですらも分かち合えない苦しみがあったと思います。

でもずっとずっと応援して、支えてくれる人がいました。『それだけで強くなれた』なんてそんな綺麗事は言わないけれども、何度も“幸せのかけら”をもらって頑張れました。そのかけらを“幸せ”にできるように頑張ってきました。



『夢を生きる』羽生結弦 (中央公論新社)

『ちびまるこちゃん』の作者であるさくらももこさんのエッセイ、図書館にあります。アニメのまるちゃんの世界そのものです。クスッと笑いながら、どんな人も受け入れられる優しい世界にほっとします。



(左)『まるこだった』さくらももこ (集英社)
(中)『さるのこしかけ』さくらももこ (集英社)
(右)『さくら日和』さくらももこ (集英社)

本の紹介

『伴走者』 浅生 鴨（講談社）



「伴走者」とは、視覚障害のあるスポーツ選手が安心して全力を出せるように、選手の目の代わりとなる存在。マラソンやスキーなどで、周囲の状況や方向を伝え、ペース配分やタイム管理をします。

東京オリンピック・パラリンピックが2年後となりました。いろいろな形で、スポーツに、そして、オリンピックに関わる人がいます。

今だからこそ、読んでほしい一冊です。

『ノベライズ この世界の片隅に』

【原作】この史代【ノベライズ】蒔田陽平（双葉文庫）

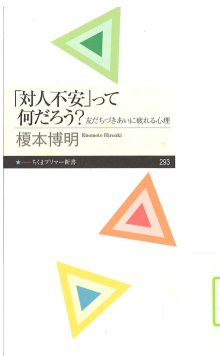


原作の漫画、アニメ映画を小説化したものです。ドラマ化もされました。

広島・呉での戦時中の「日常」が描かれています。主人公のすずさんは普通の一人の女性です。戦争に翻弄されながらも、一日一日を生きていくすずさんの姿が心に残ります。

『「対人不安」って何だろう？友だちづきあいに疲れる心理』

榎本博明（ちくまプリマー新書）



たとえば、この本の中には以下のような文章があります。

「SNSは、「どう思われるだろうか？」と気にしなければならない相手を大量に増やす道具と言える。（中略）「人の目」を適度に気にすることは大切だが、SNSで多くの人とつながることで、「人の目」にがんじがらめにされ、疲弊してしまう。そうすると人づきあいが苦痛になり、対人不安の深刻度が増していく。ストレスを軽減するためにも、対人不安を和らげるためにも、

SNSから遠ざかり、「人の目から解放れた時間をもつことが必要である。」

友だちといっしょにいてもホンネを出せない自分がある。嫌われることを恐れ、気づかいに消耗している……。そんな悩みはありませんか？

この本から、客観的に自分を見つめ、どう人とつきあっていくか、ヒントをもらえるかもしれません。